

歩行の左右差改善訓練

歩行リハビリセンター HOKORU

脳卒中や運動器疾患を持つご利用者の特性であり、さまざまな動作能力低下につながるステップの長さの左右差などの歩行非対称性を改善する訓練を行います。

左右のベルト速度をそれぞれ調整できる「スプリットベルトトレッドミル（以下、スプリット®）を使用し、障害側のベルトの速度を遅くします。ベルトの速度を変化させることで、中枢神経系（小脳、脊髄）による左右の誤差を修正する機能を活性化させ、歩行時の左右差の改善を図ります。



左右のベルトを同じ
速度で歩行

障害側のベルトの速度を
遅くして歩行

体幹の開き
骨盤の遅れ

体幹の開き
骨盤の遅れ

改善



左のベルト
右のベルト



高速度
低速度

① 同速モード

② 変速モード

左右差の確認

改善



同速度

高速度

低速度

効果アップの
ポイント

ベルトの速度を変化させる際は、ご利用者の“意識にのぼらない”程度に行います。これにより、健側への依存や過度な代償動作が軽減され、効果的に訓練を行うことができます。

楽しく行うポイント

スプリット®は、歩行時の歩幅や、足の接地時間などの歩行データがリアルタイムで表示されます。歩行中または歩行後に、ご利用者へその変化について説明することで、根拠の強いサイエンスの介入が効果と説得力を増し、“楽しくすべき”という脳内報酬の増加を得られます。

効果

健側・障害側のベルトの速度をコントロールすることで、減少しがちな障害側の立脚時間が増加し、左右対称な歩行の運動学習につながっています。
また、その後も“後効果”として運動効果は継続され、さまざまな訓練をより効果的に行うことができます